

音楽科学習指導（略）案

2年3組 24名 指導者 榮留 由華

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 「課題設定の工夫」や「振り返りと価値付けの工夫」を取り入れることは、音楽に対する意欲や次時以降の学びの意欲を高めるなど、主体的な学びの手立てとして有効であったか。
- 「教師の発問の工夫」や「自分や集団を発展させる学習方法」を取り入れて、互いに気を付けたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合うようにすることは、音楽に対する自分の思いや意図をもち、音楽表現の活動から成就感・達成感を獲得して、音楽のよさを実感できるようにするなど、対話的な学びの手立てとして有効であったか。

1 題材
教材

はくのみとまりをかんじとろう

- 「はしの上で」久野静夫 日本語詞／フランス民謡
- 「トルコこうしんきょく」ベートーベン 作曲
- 「たぬきのたいこ」阪田寛夫 日本語詞／チェコ民謡／編曲者不明（本時主教材）
- 「かつこう」小林純一 日本語詞／ドイツ民謡
- 「メヌエット」ペツォルト 作曲

【共通事項】 音色、リズム、旋律、強弱、拍の流れ

2 指導計画（総時数9時間）

○重点化する「全ての学習の基盤となる資質・能力」

次	主な学習活動【評価規準】	重点的な共通事項	時間	基盤となる資質・能力				
				言	情	問	実	協
1	<p>はしの上で</p> <p>1 2拍子の拍のまとまりを感じながら、音楽に合わせて一人で手遊びをしたり、手遊びをしながら歌ったりする。 【態：2拍子の拍のまとまりを感じ取って、手遊びをしながら歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】</p>	旋律 拍の流れ	1				○	○
	<p>2 2拍子の拍のまとまりを感じながら、一人または二人で変化を付けて、手遊びをしながら歌う。 【思：2拍子の拍のまとまりを聴き取り、2拍子の感じをつかんで手遊びの仕方を工夫し、どのように歌うかについての考えをもっている。】</p>	リズム 拍の流れ	1	○				○
2	<p>トルコこうしんきょく</p> <p>3 旋律の変化とともに強弱も変化することに気付きながら、2拍子の拍のまとまりを楽しく感じ取って聴く。 【態：手拍子を打ったり体を動かしたりして、2拍子の拍のまとまりや楽曲の気分を感じ取って、聴く学習に進んで取り組もうとしている。】</p>	旋律 拍の流れ	1	○		○		
	<p>4 2拍子の拍のまとまりを感じ取りながら、手拍子を打って音楽を聴き、楽曲全体を楽しんで聴く。 【知：拍子の感じや強弱の変化を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。】</p>	リズム 旋律 強弱 拍の流れ	1		○	○		
3	<p>たぬきのたいこ</p> <p>5 2拍子との違いについて気付き、音楽に合わせて歌う。 【態：3拍子を感じながら、歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】</p>	リズム 拍の流れ	1			○	○	
	<p>6 3拍子の拍のまとまりを感じ取り、手遊び等をしながら歌う。 【知：3拍子の拍のまとまりを感じ取り、音楽に合う手遊び等をし、楽曲の気分に合った表現で、歌ったり演奏したりしている。】</p>	リズム 拍の流れ	1 （柔時）		○		○	
4	<p>かつこう メヌエット</p> <p>7 歌詞に注目して場面の様子を想像したり、手遊びをしながら歌ったりする。 【態：3拍子の拍のまとまりを感じ取って、手遊びをしながら歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。】</p>	旋律 拍の流れ	1		○	○		
	<p>8 3拍子の拍のまとまりを感じ取って演奏したり、情景に合うような演奏の仕方を工夫したりする。 【知：3拍子の拍のまとまりを感じ取って、音色や演奏の仕方に気を付けて、楽曲の気分に合った表現で演奏している。】</p>	旋律 音色 リズム 拍の流れ	1				○	○
	<p>9 2拍子と3拍子の違いに気付き、3拍子のよさや面白さを感じ取りながら、聴く。 【知：2拍子や3拍子の拍のまとまりを聴き取り、それぞれの拍子を感じ取って、音楽に合わせて体を動かしながら、楽曲の楽しさや演奏のよさに気付いて聴いている。】</p>	旋律 拍の流れ	1	○				○

3 本時(6/9)

(1) 目標

3拍子の拍のまとまりを感じ取り、手遊び等をしながら歌うことができるようにする。

(2) 評価規準

3拍子の拍のまとまりを感じ取り、音楽に合う手遊び等をし、楽曲の気分に合った表現で歌ったり演奏したりしている。 【知識・技能】

(3) 指導に当たって

ア 主体的な学びの視点

「つかむ」「見通す」段階では、2拍子と3拍子の違いについて、課題設定を工夫することで、学習目標に迫るために、自ら進んで音楽に取り組もうとする意欲を引き出すようにする。

イ 対話的な学びの視点

「追究する」「磨き合う」段階では、何拍子の曲なのか、3拍子はどこを強く打ったらいいのかということ、手遊びをしながら試す活動を取り入れるようにする。また、「試す」「考えを出し合う」「確かめる」の三つの活動が往還するようにすることで、自らの考えに気付いたり、友達と考えを共有したりすることができるようにする。

ウ 深い学びの視点

「振り返る」段階では、3拍子の拍の流れと、たぬきの様子や気分を関連付けて振り返らせることで、楽曲に対する思いや意図をもち、音楽表現の高まりが実感できるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ	10	1 リズム遊びをする。(音タイム) ・この曲は、何拍子だったかな。 ・「はしの上で」は2拍子の曲だったね。 ・「強・弱」のリズムがピッタリだね。	○ 「音タイム」で前時の学習を想起するリズム遊びをすることで、「たぬきのたいこ」の拍子について疑問を促すことができるようにする。 ○ 2拍子の拍の流れに合わせて歌う活動を取り入れることで、3拍子と拍の流れが違うことに気付かせ、本時の課題へ繋げるようにする。 ○ 拡大楽譜やたぬきの絵を活用することで、拍の流れを、視覚的に捉えることができるようにする。 ● 既習曲の「はしの上で」が「1・2」の拍の流れに合うのに対し、「たぬきのたいこ」は「1・2・3」の拍の流れに合うというように比較することで、3拍子の曲であると気付くようにする。 ※ 3拍子の拍のまとまりを感じ取って、音楽に合う手遊びをし、楽曲の気分に合った表現で歌ったり演奏したりしている。(演奏聴取)【知識・技能】 ○ 次時で学習する曲に合わせて、拍の流れを感じ取らせることで、教材同士の間を巡りながら、次時への意欲をもたせるようにする。 ○ 学習の振り返りの時間を設定することで、自らの成長や変容に気づき、音楽表現の高まりや本時の達成感を味わうことができるようにする。 ○ 3拍子の拍の流れと、たぬきの様子や気分を関連付けて振り返らせることで、楽曲に対する思いや意図をもつことができるようにする。
見通す		2 前時の学習を生かして、「たぬきのたいこ」を歌う。 ・拍の流れに合わせて歌えたね。 ・2拍子ではなさそうだぞ。 ・「たぬきのたいこ」は何拍子なのかな。 3 学習課題を確かめる。 ○びょう子の「たぬきのたいこ」を、たのしくうたおう。	
追究する		4 「たぬきのたいこ」は、何拍子なのか手遊びをしながら考える。 ・手遊びのリズムで確かめてみよう。 ・「1・2・3」の拍の流れに合うから、3拍子かもしれないぞ。	
磨き合う	15	5 3拍子を感じながら、強拍、弱拍について考える。 ・2拍子は、「強・弱」の打ち方だったよ。 ・3拍子はどこを強く打ったらいいかな。 ・「強・弱・弱」の打ち方が1番合うね。	
振り返る	5	6 本時の学習を振り返るとともに、今後の学習について話し合う。 ・「強・弱・弱」で3拍子を感じながら、手遊びをすると、もっと楽しく歌えたよ。 ・たぬきがわくわく踊り出すように、歌うことができたね。 ・今から学習していく曲も、3拍子のリズムが合いそうだね。	

